

教科等研究会（小学校外国語活動部会）

令和元年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

外国語に慣れ親しみ 楽しく積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成
--

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日 6/3	人数 32人	場所 嘉島西小	期日 8/7	場所 嘉島西小	指導法 等研修 等	期日 10/18	場所 広安西小	授業者 梶原千裕 教諭 安田希美 教諭	期日 1/23	場所 津森小	授業者 赤星 凌 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマと研究の視点の設定及び研究組織づくり（期日：令和元年6月3日 場所：嘉島西小）

ア 研究テーマと研究の視点の設定

今年度の研究テーマを「外国語に慣れ親しみ 楽しく積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成」と設定した。そして、研究テーマに掲げる子どもの姿を実現するための授業づくりの視点を設定し、授業実践を行った。

- | |
|--|
| (視点1) 児童が本当に知りたいこと、伝えたいことをやり取り（発表）する活動の設定
(視点2) 外国語に十分慣れ親しんだり、学んだことを定着させたりする活動の充実 |
|--|

イ 研究組織づくり

研究部・・・研修会の企画・運営及び授業づくり推進を行う。（希望者で構成） 中学年部・・・中学年の授業研究会の運営等を行う。 高学年部・・・高学年の授業研究会の運営等を行う。＊会員は必ず中学年部か高学年部に所属する。

② 外国語活動の指導法等についての研究（期日：令和元年8月7日 場所：嘉島西小）

ア 外国語活動指導者養成研修復講及び演習（講師：御船町立小坂小学校 酒井優子教諭）

外国語活動指導者養成研修に参加された酒井先生から、以下の内容で研修をしていただいた。

<研修テーマ>

「言語活動」のイメージをつかみ、授業でどのように実現できるかを考え、やってみる。

<研修の具体的内容>

- ・「言語活動」について（「言語活動」の意味、高学年のSmall Talkの指導、新教材を使つての指導等）
- ・「読むこと・書くこと」の指導のあり方
- ・小・中連携について

イ 2学期に指導する単元の指導計画及び授業の展開案作成

復講や演習で学んだことを生かして授業づくりの研修を実施した。会員を担当学年ごとにグループ分けし、2学期に指導する1つの単元の指導計画及び1単位時間の授業の展開案を協議して作成した。

ウ 会員の感想等

- | |
|--|
| ・言語活動というどうしても「話すこと」中心ととらえがちですが、「listening」を使つてもできるということを改めて学ぶことができ参考になった。
・実際に言語活動を体験したり、教材を通した指導の中で、どのように言語活動を位置付けていくかを考えたりする時間があり充実した時間だった。
・2学期に指導する単元の授業づくりでは、たくさんの先生方を授業を考えることができ、勉強になった。先生方から授業で有効な手立てを学ぶことができた。 |
|--|

③ 第5・6学年の外国語活動の授業研究

（期日：令和元年10月18日 場所：広安西小 授業者：梶原千裕教諭 安田希美教諭）

ア 単元名 第6学年「I like my town.～熊本にきたばかりの留学生に熊本のいいところを紹介しよう」（We can! 2 Unit 4）

イ 授業実践の概要

○（視点1）子どもが本当に知りたいこと、伝えたいことをやり取り（発表）する活動の設定

本実践では、「We have～.」「You can see～.」等の表現を使って、自分の地域にあるものや、そのよさを伝える学習を行った。

単元のゴールは「日本に来たばかりの留学生に熊本県の魅力を紹介しよう」と設定した。児童が住んでいる地域は外国の方が多く住んでいるわけではなく、国際交流の機会はありません。実際に外国の方と交流し、既習の英語を用いて自分たちが住んでいる地域のよさを伝える活動は、児童が目的意識や相手意識をもって主体的にコミュニケーションを図ることにつながると考えた。

○（視点2）外国語に十分慣れ親しんだり定着させたりする活動の充実

授業の始まりにチャンツを行ったり、既習事項の確認をリズムに合わせて行ったりすることで、常に英語の音声やリズムに慣れ親しませた。「We have～.」の表現については、授業でゲームを行うことで、楽しみながら何度も繰り返して発話させて定着を図った。

○ 学習活動の様子



リズムに乗って既習事項を確認する活動の様子



地域のよさを伝える表現を考える活動の様子

③ 第3・4学年の外国語活動の授業研究

（期日：令和2年1月23日 場所：津森小 赤星 凌教諭）

ア 単元名 第4学年「What do you want?」(Let's Try! 2 Unit 7)

イ 研究の視点

○（視点1）子どもが本当に知りたいこと、伝えたいことをやり取り（発表）する活動の設定

本実践では、「What do you want?/I want～.」の表現を使って、欲しい食材を要求したり、その食材を使って考えた料理を伝えたりする活動を行った。

単元のゴールとなる活動として、「オリジナルピザを紹介しよう」と設定した。児童はピザ屋さんを訪れて、英語でやり取りをしながらトッピングを自由に選んでピザを作る活動を行った。その際に、「誰に対して（家族・地域の方・先生）どんなトッピングのピザを作るのか。」ということを見習が各自で選択をして、英語で欲しいトッピングを要求するようにした。自己決定、自己選択できる言語活動を設定することで、児童が目的意識や相手意識をもって活動できるようにした。

○（視点2）外国語に十分慣れ親しんだり定着させたりする活動の充実

バナナチャンツなどの活動を行うことで、英語の音声やリズムに慣れ親しませた。また、クラッシュゲームなどの児童がたくさん発話できるゲームを単元の中で位置付けることで、本単元で使用する表現に慣れ親しませた。

○ 学習活動の様子



バナナチャンツ「ピザのトッピング」の様子



英語でやり取りをしてピザの食材を集める活動の様子



英語でやり取りして作ったピザをALTに紹介する活動の様子



「〇〇のためのピザ」のシート

(2) 成果と課題 (成果○ ▲課題)

① 今年度の研修についての会員の感想から ※一部抜粋

- 児童が知りたいこと、伝えたいことをやり取りする活動は、意欲を高めるためにも、コミュニケーション能力を高めるためにも、大変効果的であると今年度の研修を通して改めて感じた。
- 必然性のある場面設定について事前研でもしっかり討議があって、やはり大切なんだと改めて学びました。
- 夏の復講が非常によかった。言語活動について分からなかったところがすっきりした。
- 2回の研究授業が大変充実していた。バックアップ体制もよかった。
- 今年度は授業をさせていただき、とても勉強になった。
- 授業研究会で、新たな視点で自分の授業を見つめ直すことができた。他校の先生方の意見や授業が大変勉強になりました。
- ▲ 次年度は評価について学びたい。
- ▲ 先生方の経験にも差がある。基本の授業スタイル、考え方、Classroom English等の研修の必要性を感じる。
- ▲ 中学校との連携を深めていける研修があればいい。

② 研究内容について

授業づくりの視点を第1回目の研修で設定し、共通理解したことで、授業研究会の際にポイントを絞って成果、課題、改善策を出し合うことができた。また中学年で1回、高学年で1回研究授業を実施したことで、学年の系統性についても意識することができた。夏の指導法の講習等も会員の先生方の多くの学びにつながった。来年度は高学年は教科としての外国語が実施になる。中学校との連携も行いながら、評価の方法、読むことや書くことの指導についても研究を進めていく必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要 (授業者 授業者：梶原千裕教諭 安田希美教諭 ALT Ethan Barkalow)

① 単元名 第6学年「I like my town.～熊本に来たばかりの留学生に熊本のいいところを紹介しよう」(We can! 2 Unit 4)

② 本時の目標

自分が住んでいる地域のよさについて、理由を付けて言ったり聞いたりしようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

③ 本時の概要

本実践では、「We have～.」「You can see～.」等の表現を使って、自分の地域にあるものや、そのよさを伝える学習を行った。単元のゴールを「日本に来たばかりの留学生に熊本県の魅力を紹介しよう」と設定し、相手意識、目的意識をもたせた。

研究授業では、最初に地域にあるものの紹介だけでなく、そのよさや理由を伝えなければ、相手に「行きたい」と思わせることができないことを確認した。そして、グループで紹介したい場所とその場所のよさや理由を考え、既習の英語の表現を用いて、伝えたいことを試行錯誤しながら表現したり、ALTに自分たちの紹介を聞いてもらったりするなど、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする児童の姿が随所に見られた。



ALTに地域のよさを紹介する活動の様子

